



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年9月8日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:5名

指導員:3名

テーマ 草原の生き物

台風10号が通過し、少しは涼しくなるかと期待しましたが、相変わらず暑さが続いています。ただ、虫の音がセミからコオロギに変わり、何となく秋らしさも感じられます。

テーマは草原の生き物ですが、川原がきれいに草刈りされ、草が残っているのは堤防周りに限られています。そこに咲く花(特にマメ科に注目)や飛び出すバッタの仲間などを見て回りました。

よく似たオオフタバムグラとメリケンムグラの花の色や株の広がり具合などを、またネナシカズラとアメリカネナシカズラの茎の色や太さなどを比較して、違いを確認しました。堤防道路脇にはツルボが花茎を伸ばして最多いました。

バッタの仲間は堤防下ではショウリョウバッタやヒナバッタが、池の縁ではコバネイナゴが多く飛び出しました。好みの環境が違うようです。

シンジュの木の枝では、7月にもいたシンジュキノカワガの終齢幼虫とシタベニハゴロモが見られました。シンジュキノカワガは参加者の一人が幼虫を持ち帰って育てたら7月末に羽化し、その写真を見せてもらったので親しみが増しました。今回の幼虫はその時の一世代あとの幼虫と思われます。

マメ科の植物はヤハズソウの赤紫の花から始まり、メドハギ、ハギの仲間、アレチヌスビトハギ、アレチケツメイ(花は黄色)、ムラサキツメクサ、ノアズキ(花は黄色)、クズ、フジカンソウ、ヌスビトハギの10種が出現しました。ただ、今季はどういう訳かクズの花が少ないようで、広く覆っている堤防法面では花はなく、終わりがけにフェンスに絡まった株で数房の花が見られただけでした。

ススキの葉をかき分けてみると、ナンバンギセルが咲いていました。ここでは昨年も見られました。

大野極楽寺公園では早咲きのヒガンバナが見られました。普通は彼岸の頃に咲く花ですがこのものはほぼ毎年8月から花が見られます。ネットで早咲きの品種があるか検索したところ、変種にコヒガンバナがあり、ヒガンバナより1か月程早く咲くということでした。花の形態はほぼ同じですが、2倍体で結実するこちうことで見分けられるようです。そのうち、結実しているかどうか確認してみたいと思います。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花:ブタクサ、オオブタクサ、ブタナ、ヒメジョオン、クイモ、イヌコウジュ、メマツヨイグサ、ミソハギ、センニンソウ、ツユクサ、ヤブミョウガ、マメアサガオ、マルバヅクサ、ヤブラン

虫:シオカラトンボ、ウスバキトンボ、アオモンイトトンボ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、セスジスズメ(幼)トノサマバッタ、クルマバッタ、オンブバッタ、ツチイナゴ(幼)、外来アミガサハゴロモ、アブラゼミ(声)、ツクツクボウシ(声)、エンマコオロギ(声)

鳥:トビ、キジバト、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

その他:ニホンカナヘビ、アマガエル



(早咲きのヒガンバナを観察中)



ツルボ



ノアズキの花:なぜ左右非対称



早咲きはコヒガンバナか?



ナンバンギセル